

# Dream Plan

平成28年度ドリームプラン

ふれあい体験 ～スリランカの子どもたち～

家政学部児童学科2年 益子詩音

අයුබවන් (Ayubovan アユボワン) こんにちは。私は2016年12月26日から2017年1月5日までの11日間、スリランカに行きました。研修の半分は保育系施設の見学、半分は文化学習を行いました。

私が利用した「後援会ドリームプラン奨学金」を知ったのは1年生の夏ごろでした。チアリーディング部に所属しているため、練習に向かうたびに後援会の事務室の前に掲示してあるポスターが気になっていたのです。しかしその頃には締め切りだったので「来年考えてみよう」と、漠然とっていました。そして2年生になってすぐ、同じ保育系でチアリーディング部所属の高木さんに「一緒にこれ挑戦してみない？」と、誘いました。返事は「何これ！面白そう！やる！」。一緒に頑張る仲間ができたことが、とても嬉しかったです。

応募することが決まった後は、申請書を書いたり面接を繰り返したり少し大変でした。そのため、採用が決まった時は本当に嬉しく楽しみで仕方ありませんでした。しかし同時に不安が募っていたのも事実でした。本当に採用されちゃった…生きて帰ってこられるのだろうか…等、悪いこともたくさん考えてしまいました。そんな時に相談に乗ってくださったのが後援会の保刈さんや中村さん、計画を一緒に考えてくださった松本先生でした。「こうしたらどう？」「大丈夫よ！」とたくさんの勇気をいただき、私は出発しました。

飛行機を降りるとムワッとした暑さに襲われました。真冬の日本から着て来た長袖では、大汗をかいてしまうほどスリランカは暑かったです。施設見学では4か所を巡らせていただきました。日本で言う乳児院・児童養護施設が併設されている園を1か所、幼稚園が2か所、障がい者施設を1か所見せていただきました。乳児院は私が日本でボランティアをしている園よりも小規模でした。日本では0-2歳くらいが70名近く生活を共にしていますが、ここではたった2名でした。職員の方が1名でじっくり見ることができるので、とても家庭に近い環境であるように思い



ました。児童養護施設では異年齢で生活し、昔の日本のような大舎制の雰囲気を感じました。上の子が下の子の面倒を見、下の子は上の子に憧れを持つという育ち合いが生まれやすい環境だと思いましたが、個人の時間をもちづらく年頃の子どもたちにとっては考える部分もあるように思いました。幼稚園は2か所とも自然が多く手作りのあふれた園でした。A園ではちょうど修了式を行っている日だったため、非日常の姿でしたがまるでお祭りのような賑わいでした。ダンスや歌、お芝居を順に子どもたちが披露していくととても楽しい式でした。また、保護者・地域の方のお手伝いがとても多く、驚かされました。B園ではある日の保育風景を覗かせていただきました。日本のように先生が前で話すスタイルで活動は進められ、色あてゲーム、指人形劇、砂遊び等を行いました。砂遊びの道具はココナツの皮でした。砂を詰めてカパッと山にしたものを、私にプレゼントしてくれる子がたくさんいたのでその都度お団子を作って返すと、とても喜びました。道具によって山は作れましたが、団子はあまりなじみがないのだと気づきました。最後に見学させていただいたのは障がい者施設です。ここは毎日通所するのではなく、来たいときに来るというスタイルでした。電動マッサージ機を体に当て血液の循環を良くしたり、指先を動かすおもちゃを使って遊びました。その子によってできるもの、その日の気分がはっきりと分かれるため先生は様子を見て「これはどう？」と提案していました。施設見学では万国共通、子どもはかわいいということを確認し、とても幸せな時間を過ごしました。

一方、文化学習では世界遺産であるシギリヤロックに上りました。何段も階段を昇っていくととてもきれいな景色を見ることができました。頂上ではたくさんの日本人の方に出会い、なんだかホッとさせられる瞬間でした。また、私が施設見学の次に楽しみにしていた像の孤児院にも行きました。像が水浴びを楽しむ姿はとてもかわいく、飼育員さんの指示を聞く様子は信頼関係ができている証だと思いました。この他にも様々な施設を見学しました。タクシーのドライバーさんが気ままに「ここ行こう」と、車を走らせます。乗っている私はどこに行くのかもわからないまま揺られ、着いたら予定にない施設ということが何度もありました。スリランカの方はサービスが好きなように見えました。ちなみにスリランカを訪れて一番びっくりしたことは車の走り方です。道路のあちこちでプッププップとクラクションが鳴っていました。2車線のところを何故か3台が通ろうとします。私はこの国では運転したくないと思いました。そして帰国後の日本の運転の穏やかさに変な安心をしたのを覚えています。

最後まで一緒に頑張ってくれた高木さん、松本先生、保莉さん、中村さん、後援会役員の方々本当にありがとうございました。

